

4 ページ 発信!

奄美 世界へ!

シマの 自然と文化を

NEWS

このニュースレターでは、奄美群島にお住まいのみなさんに、世界自然遺産登録や国立公園指定に向けた取組状況をお知らせします。ぜひお読みいただき、奄美のことを一緒に考えていきましょう!

LETTER

世界自然遺産・国立公園に関する連絡会議が開催されました。

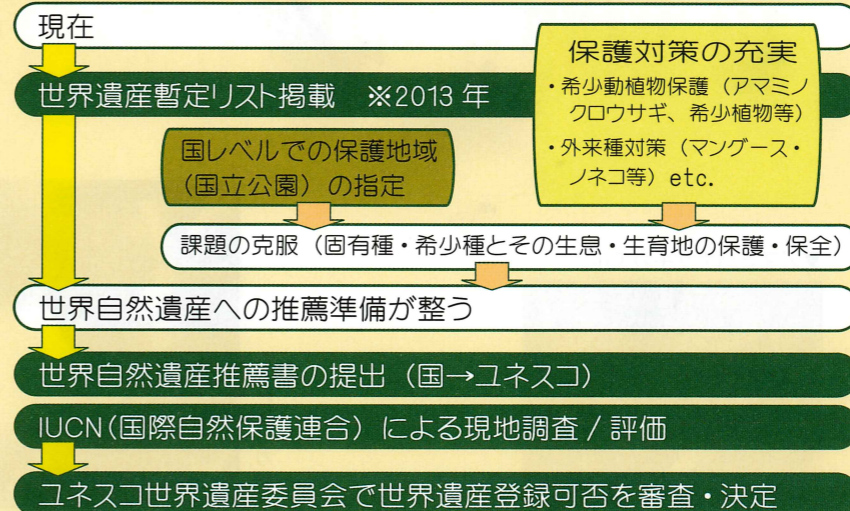


平成 25 年 2 月 4 日(月)に、名瀬で「平成 24 年度第 2 回奄美地域の世界自然遺産・国立公園に関する連絡会議」が開催されました。

会議では、環境省から1月31日に国の関係省庁連絡会議において「奄美・琉球」の世界遺産暫定リストへの記載が決定したことの報告がなされるとともに、「奄美・琉球」の世界自然遺産登録までのプロセス(図1)について説明がなされました。また、世界自然遺産登録に関連した奄美群島の地域振興について大島支庁長による講演が行われました。講演では、奄美群島と世界自然遺産の屋久島の社会経済動向の比較を通して奄美群島の現状と課題点、屋久島における世界自然遺産登録による社会経済面での効果などについて説明がなされました。特に、奄美群島において

は世界自然遺産登録を目指し、その効果を様々な分野に波及させることにより地域の再生・活性化の起爆剤とする以外に選択肢は残されていないことが強調されました。

世界自然遺産登録に向けたプロセス



1 はげえ 感心したやあ
いねいちゃん
ぬし恵さん
(回すか?)
子どもたちの
発表を聞いて
感心したやあ

龍郷町教育委員会 重原勇夫 教育長

子どもたちが
シマのことを真剣に
考えてるやあち。

車の通行規制や
小動物を感知する
車の開発をして、クワ
サギを交通事故から
守りたい!



さんきゅ!
希少な奄美の
クワガタを守るため
の「条例」を
考えました!

2 自然と仲良く
くらすためだったり、
文化を伝承するために、
自分たちで、調べて、
考えて、アイデアを
出したり、
やってみたり
してるわけよ。

夏でも涼しく
美味しく
食べられる
「NEW鶏飯」を
考えました。



龍郷町立大勝小学校の皆さん

産卵のために海へ行く
カニが安心して通れる
エコ道路を作って!



3 うれしくなるやあ、
奄美や沖縄の
たくさん小学校、
中学校、高校でも
シマの自然や文化を
子どもたちが
ついで学習する。
大人が子どもを
見習いまいじゃ(笑)

4 いねいちゃん
おつしやる通り!

シマの将来を託す
「子どもたちの声」
わきやなきや大人が
真剣に聞いて

「一緒に島の
未来を
創る時代」
がきましたね!



サンゴを守るためのアイデアを発表する石垣島の白保小学校の皆さん。

編集後記



子どもの頃、学校ではシマの自然や文化を
教えてくれるところが、「方言を使わず、標
準語で話しましょう」が当たり前。もちろん
「内地で恥ずかしい思いをしないように」と
私たちの将来を思っただけの親心だったので
しょう。でも、今回取材した「シマの自然や文化
を子どもたちが調べ考える教育」。それを支
える先生方の情熱。どちらも僕らの時代から
欲しかったと思う黒豚でした。(黒豚編集長)

連絡先：環境省奄美自然保護官事務所
電話：0997-55-8620

～コラム～ 奄美の山 ひとり歩き

奄美群島の自然は多様でユニークで素晴らしい。
自然や文化を活かしたエコツーリズムの島にな
る覚悟さえあればきっとスゴい島になれる。

現実には開発との軋轢、希少植物の盗掘、外来種
の影響、ゴミのポイ捨てや不法投棄、赤土流出、サンゴの衰退や農業に
よる地下水汚染など問題は山積みだが、社会経済面の問題の深刻さも忘
れてはいけない。

「自然保護だけじゃ島は回らない。

でも、環境(保全)を無視しては島は成り立たない。」

国立公園指定や世界自然遺産登録が「共生と循環と多様性の島々」実現
へのきっかけになるよう、これからも何が出来るか考え一歩ずつ前に進
んでいきたい。

「奄美・琉球」の世界遺産暫定リスト記載が決定!

1 世界自然遺産としての価値 その

「地史を反映した独特な種分化・系統的
多様化の過程を明白に表す顕著な見本」

■「奄美・琉球」は、約 1500 万年前（新第三紀中新中期）以前にはユーラシア大陸の東端となっており、大陸の一部として共通の陸生生物が生息・生育していた。しかし、その後海に隔てられた小島嶼群となる過程において、当時この地域に生息・生育していた陸生生物が島内に隔離され、分布が島ごとに細分化されたために独自の進化が進んだ。

■特に、奄美群島や沖縄諸島に棲む移動能力の低い陸生脊椎動物の多くは遅くとも約 200 万年前～ 170 万年前（第四紀更新世の初期）までに大陸との行き来ができなくなり、隔離の歴史が長い。大陸など近隣地域に分布するものが絶滅していく中、海に隔てられて新たな捕食者（天敵）や競争相手が入って来にくい島でだけ生き残ることができた遺存固有状態の種が見られる。

■このような種の代表例として、アマミノクロウサギ、ケナガネズミ、トゲネズミ属 3 種（アマミトゲネズミ、トクノシマトゲネズミなど）、ルリカケス、イボイモリなどが挙げられる。



アマミノクロウサギ▶

■「奄美・琉球」の島々では、現在でも同一の種がそれぞれの島で別の種になっていく種分化が進行中で、島ごとに固有種や固有亜種となっている事例も豊富に見られる。

■典型的な例として、奄美群島から台湾までの地域で 5 つの種に分かれているハナサキガエル類（アマミハナサキガエル等）や徳之島と沖縄諸島の限られた島だけに棲み、5 つの亜種に分かれているクロイトカゲモドキ（徳之島ではオビトカゲモドキ）などが挙げられる。「奄美・琉球」の島々は、特に陸生は虫類と両生類の固有種率が高く、陸生は虫類の固有種率は約 80%、両生類の固有種率は約 79%となっている。



▼アマミハナサキガエル

平成 25 年 1 月 31 日に、国の世界遺産条約関係省庁連絡会議において、「奄美・琉球」を世界遺産暫定リストに記載することが決定しました。『世界遺産暫定リストに記載する』ということは、国が「今後数年をメドに、その地域を世界遺産として推薦するつもりである」という意思表示を世界各国に向けて表明するということで、「奄美・琉球」が正式に世界自然遺産の候補となりました。

今号では、「暫定リスト記載のための提出文書」から「奄美・琉球」の世界自然遺産としての価値とは何なのかを概説します。



◀イボイモリ

※暫定リスト記載のための提出文書をご覧になりたい方は、下記アドレスにアクセスしてください。
<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=16268>

2 世界自然遺産としての価値 その

「世界的に重要な絶滅のおそれのある種の生息・生育地など生物多様性の生息域内保全にとって最も重要な自然の生息・生育地を包含した地域」



▲ケナガネズミ

「奄美・琉球」には、アマミノクロウサギ、イリオモテヤマネコ、アマミトゲネズミ、トクノシマトゲネズミ、オキナワトゲネズミ、ケナガネズミ、ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ルリカケス、リュウキュウヤマガメ、ヤヤマセマルハコガメ、クロイトカゲモドキ（徳之島ではオビトカゲモドキ）、イボイモリ、オキナワイシカワガエル、アマミイシカワガエル、アマミハナサキガエルなど、国際自然保護連合がまとめた国際的絶滅危惧種のリスト（IUCN レッドリスト）に掲載されている動植物が 50 種以上確認されており、これらにとってかけがえのない生息地・生育地となっている。また、これら国際的絶滅危惧種のほとんどは「奄美・琉球」のみに棲む固有種である。



▲オビトカゲモドキ



▲アマミトゲネズミ

植物では、「奄美・琉球」はその気候条件と多様な分散の歴史を反映して、東アジア、東南アジア及び大洋州の植物相が混合した特徴的な植物相を有している。植物の多様性は極めて高く、主要な島嶼群それぞれに 1,000 種以上の献花植物（花を咲かせる植物）が生育している。国土面積に占める割合は日本全体の 1%にも満たないが、国内の絶滅危惧植物の約 20%が生育しており、絶滅のおそれのある植物の保護のための最重要地域として認識されている。

このため、「奄美・琉球」は、国際的な団体・機関により次のような国際的に生物多様性の保全上重要な地域としても選定されている。



▲アマミイシカワガエル

TO WORLD NATURAL HERITAGE



▶ルリカケス

1 Biodiversity Hotspot
(生物多様性ホットスポット)
日本列島の中でも特に絶滅のおそれのある固有種の生息地・生育地として「奄美・琉球」を評価



2 Endemic Bird Areas of the World (固有鳥類生息地)
アマミヤマシギやヤンバルクイナなどの固有種の生息地として選定
◀アマミヤマシギ

3 Important Bird Areas (鳥類重要生息地)
絶滅のおそれのある種、生息地が限定されている種の生息地、渡り鳥の中継地・越冬地として、「奄美・琉球」から 8ヶ所が選定

4 The Global 200
(地球上の生命を救うためのエコリージョン・グローバル 200)
「奄美・琉球」から森林生態系（亜熱帯島嶼群で見られる固有性の特異的事例）と沿岸生態系（孤立性が高く特異な種の進化を可能にする地域）が選定